

栄養学科 2023 年度卒業生(令和 6 年 3 月卒業)に関する企業へのアンケート結果

1. アンケートの目的

栄養学科では、学修成果(到達目標)として、「基礎力」、「実践力」、「人間関係力」、「生涯学習力」、「地域理解力」の五つの項目を挙げている。この学修成果の各項目について、その到達状況を把握するとともに改善点を検討するための情報を得る。

2. 方法

2-1 調査項目

アンケートの調査項目を表 1 に示す。調査項目は、学修成果(到達目標)の各項目とし、設問は、できるだけ直接的な設問とした前年度実施調査と同じ質問票を用いた。

2-2 調査対象

調査対象は、2023 年度(令和6年3月)に卒業した学生の就職実績のある企業で、学生総合支援センターで選択した 10 社とした。

2-3 調査期間及び回答方法

調査期間は、2025 年 3 月 1 日から 3 月末までの約 1 か月間とした。調査は、学科で作成した依頼文書を 2025 年 3 月、学生総合支援センターから調査対象企業の人事担当部署宛て送付し回答を依頼した。回答方法は、依頼文書で案内したマイクロソフトフォーム上に作成した自記式アンケートフォームへの入力とした。

3. 結果

卒業生が就職した実績のある企業 10 社を対象に、令和 6 年(2024 年)3 月に卒業した卒業生(2023 年度卒業生)に関するアンケートを 2025 年 3 月に依頼し、8 社から回答を得た(回答率 80%)。アンケートの各項目の結果を、図 1 に、自由記載欄の結果を表 2 に示す。

アンケートの回答は、(とてもそう思う)、(ややそう思う)、(あまりそう思わない)、(まったくそう思わない)の 4 項目からの選択とし、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を肯定的な回答、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を否定的な回答として評価した。

すべての設問項目で、肯定的な回答が優位であった。否定的な回答は、「4. 基本的な調理技術が身についている」、「6. 基本的な礼儀作法が身についている」、「7. コミュニケーション能力がある」、「9. 知識や技術の習得に積極的である」、「10. 自分で問題点や課題を見つけることができる」、「11. 栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている」の 6 項目で認められたが、その割合はいずれも 13%(8 社中 1 社の割合)であった。自由記載欄では積極性に関するコメントが 2 社から、コミュニケーション能力に関するコメントが 2 社から、調理技術に関するコメントが 1 社からあった。

本調査の調査項目は、2022 年度卒業生を対象とした前年の調査と同じ様式と内容で実施した。調査項目別では、「1. 一般的な教養と知識が身についている」、「2. 栄養士に必要な基礎知識が身についている」は、ほぼ変化が無かった。

この二つの項目は、学修成果の【基礎力】一般教養並びに各専門分野の基礎的能力にあたり、この基礎力については、際立った変化は認められないと判断された。

また、「3. 責任をもって仕事を行うことができる」、「4. 基本的な調理技術が身についている」についても、ほぼ変化が無かった。

一方、「5. 基本的な衛生管理を行うことができる」は、(とてもそう思う)の割合が顕著に増加した。

この三つの項目は、学修成果の【実践力】各分野の実際の場面に対応できる力にあたり、この実践力については、改善方向にあると判断された。

「6. 基本的な礼儀作法が身についている」、「7. コミュニケーション能力がある」、「8. 他者と協力して仕事を行うことができる」は、いずれも、(とてもそう思う)の割合が増加した。

この三つの項目は、【人間関係力】専門職・社会人として必要なコミュニケーション能力にあたり、こ

これらの結果は、改善傾向にあると判断された。

「9.知識と技術の習得に積極的である」は、肯定的回答の割合にほぼ変化はないものの、昨年度は無かった(あまりそう思わない)との回答が1社からあった。

一方、「10.自分で問題点や課題を見つけることができる」は、(とてもそう思う)の回答が顕著に増加した。

この二つの項目は、【生涯学習力】生涯にわたって学び、成長できる力にあたり、一部後退の意見があるものの、全体としては改善傾向にあると判断された。

「11.栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている」は、ほぼ変化が無かった。この項目は【地域理解力】地域・文化の多様性を理解し、地域に貢献できる力にあたる。

自由回答では、積極性、コミュニケーション能力、調理技術に意見が寄せられた。今回のアンケート(質問 1～11)では、全体としては「基礎力」、「実践力」、「人間関係力」、「生涯学習力」、「地域理解力」の五つの項目において改善方向を示す結果となったが、潜在的には積極性、コミュニケーション能力、調理技術の更なる向上を求める要望があることを認識し、授業の継続的な改善を行う必要があると考える。

表1 アンケート様式

仙台青葉学院短期大学栄養学科卒業生に関するアンケート

貴社で雇用された本学栄養学科卒業生についてお尋ねします。
 本学卒業生（令和6年4月就職）の能力・資質について、現時点での評価をお願い致します。
 下記の4段階評価より一つ選択し、該当する番号に○を記入願います。

選択4段階
 (4) とともそう思う (3) ややそう思う (2) あまりそう思わない (1) 全くそう思わない

項目	評価			
1 一般的な教養と知識が身についている	4	3	2	1
2 栄養士に必要な基礎知識が身についている	4	3	2	1
3 責任をもって仕事を行うことができる	4	3	2	1
4 基本的な調理技術が身についている	4	3	2	1
5 基本的な衛生管理を行うことができる	4	3	2	1
6 基本的な礼儀作法が身についている	4	3	2	1
7 コミュニケーション能力がある	4	3	2	1
8 他者と協力して仕事を行うことができる	4	3	2	1
9 知識や技術の習得に積極的である	4	3	2	1
10 自分で問題点や課題を見つける事ができる	4	3	2	1
11 栄養士の立場で、職場や地域社会に関わっている	4	3	2	1
12 要望（身につけて来て欲しい事や気づいた事）などございましたら、こちらにご記入下さい （自由記述）				

図1 企業アンケート結果

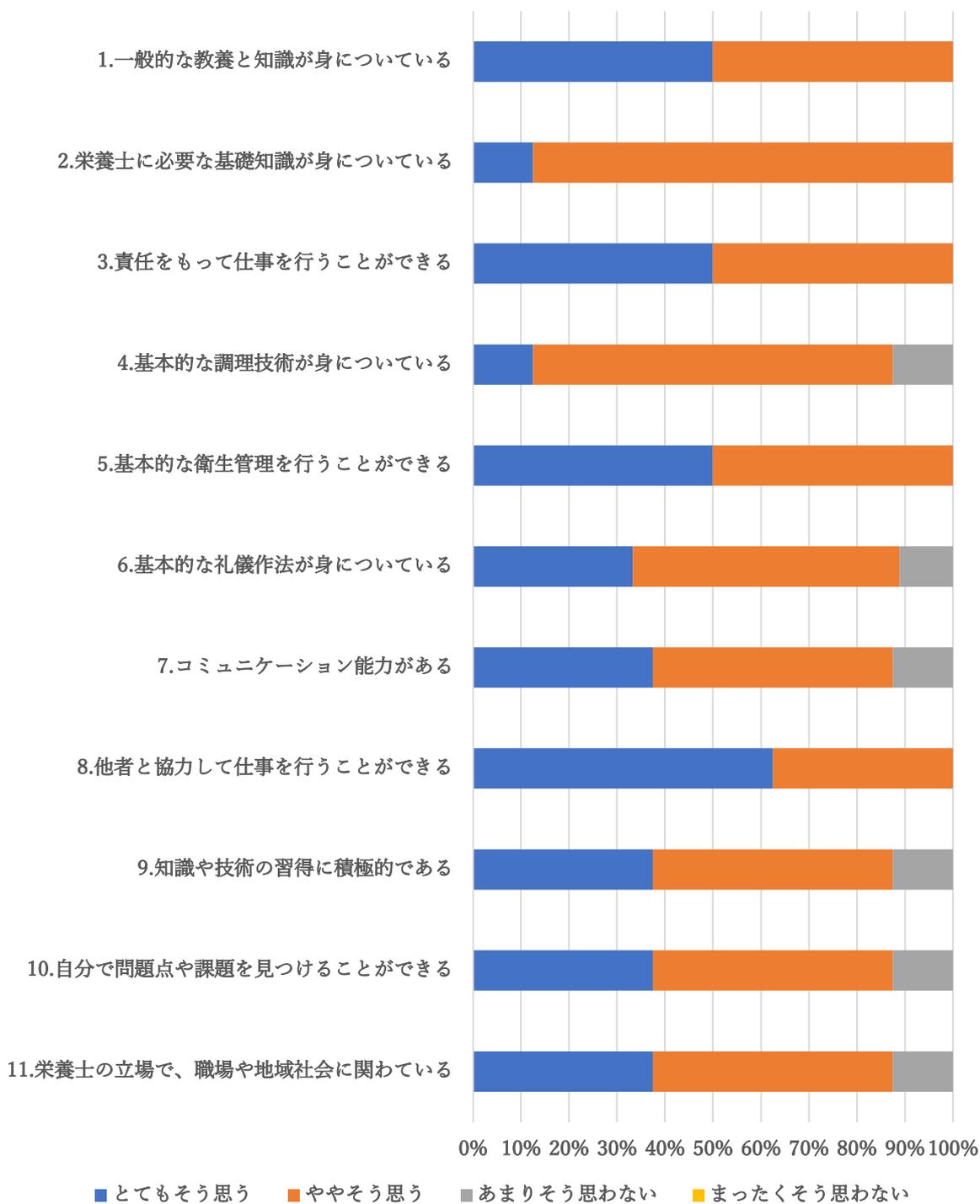
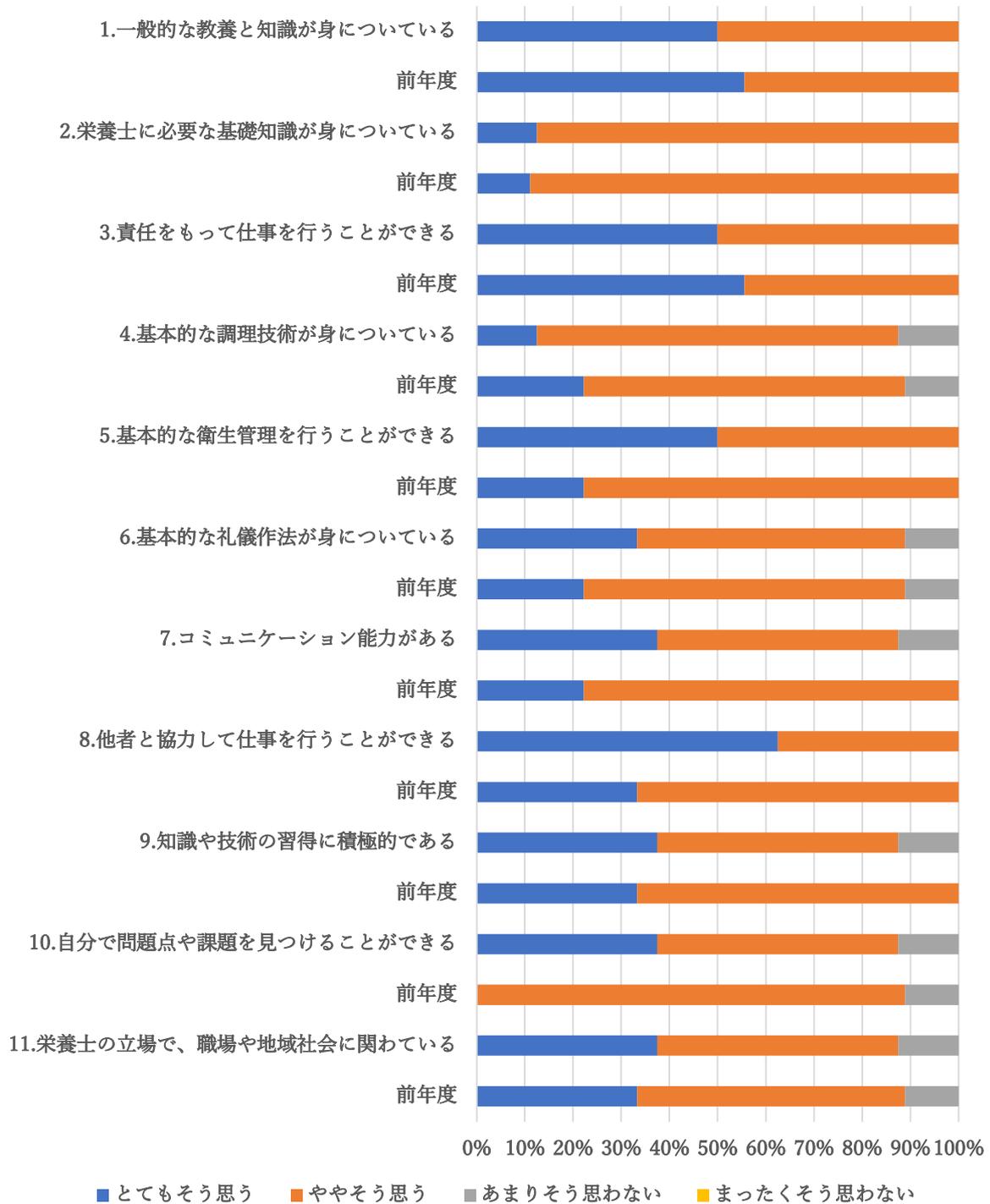


表2 自由記載欄の記述回答

12. 要望(身につけてきてほしいこと、気づいたこと)など(自由記述)

- 新卒にみられる傾向ですが、仕事への積極性がもう少しあるといいと思います。積極的に主体的に動ける人は成長のスピードも早く、活躍の場が広がります。学校でも積極性を身につけてほしいです。社会にでた時、どんな仕事にも意欲的に取り組むことができます。
- 多くの卒業生に活躍していただいております。その為一概に言えないところもございます。最近では積極的に知識、技術の取得に力を入れている方おります。しかし、イメージが違うとご縁が無くなってしまった方もありました。今後も仕事を理解していただけるよう努めてまいります。
- 引き続き食で人々を笑顔・健康にしたい人を育てていただければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
- コミュニケーション能力は凄く大事ですので、身につけてきてほしいです。
- 毎年学生を預けていただきありがとうございます。
- 特になし
- メールや電話に対しての折り返しをすること
- 厨房業務のことになってしまいますが、果物や野菜のカットに慣れていると尚良いかと思えます。特にオレンジ、キウイフルーツ、りんごはよく献立に出るので、皮剥きを練習するとスムーズかと思えます。

図2 企業アンケート結果（前年度との比較）



謝 辞

本調査にご協力いただきました、各企業総務・人事担当者様を始め関係部署の皆様へ深謝いたします。いただいた意見は、栄養学科の学生教育の改善に資するほか、学生の成長の手助けとなる貴重な意見と受け止めております。今後も頂いた意見を真摯に受け止め、より良い学修成果の達成に努力してまいります。再度、就職先企業の皆様へのアンケートへの協力に心から感謝申し上げます。
 仙台青葉学院短期大学 栄養学科